

クラシック・バレエの基本指導における基礎的研究 —バー・プログラムにおける3つの原理の意義に着目して—

Basic Study on Fundamental Lessons in Classical Ballet —Focusing on the Significance of Three Principles in the Program of Barre Exercises—

小山 佳予子¹⁾ 渡辺 碧²⁾ 八丁 茉莉佳³⁾ 畑 攻⁴⁾

Kayoko KOYAMA, Midori WATANABE, Marika HATCHO and Osamu HATA

Abstract

Classical ballet is composed of and is organized by basic fundamentals—the five positions of the feet from No. 1 to 5 and four types of *pas* (a combination of steps) based on the three principles of *En dehors*, *Aplomb*, and *Elevation*. In Japan, there are many ballet studios and schools, and instructions are given based on the said fundamentals there. However, the common understanding of those fundamentals is not completely identified. Therefore the instructions are based on the basic fundamentals but are not common.

Thus, the objective of this study is to use a questionnaire to examine the freshmen from all parts of Japan majoring in dance studies at Japan Women's College of Physical Education in order to consider appropriate instructions for the future with regard to an understanding of the basic fundamentals of classical ballet, the characteristics of subjects who participated in the study, and the change or progress in mastering the status by class or type of dance they specialized in through the program of barre exercises.

The result showed that the three principles that are the bases of classical ballet were not fully understood, except for *En dehors*, and there was little literature concerning dance that explained the three principles. Thus, it proved the need for instructions incorporating the three principles in a well-balanced manner for mastering the basic fundamentals of classical ballet in the future.

Keywords : *classical ballet, fundamental, three principles*

I. 緒 言

クラシック・バレエは17世紀にピエール・ボーシャ
ン(1631~1705)が足と腕の位置、動きのパターンを
定義したことから始まり、ポジション、ステップ、動
きの用語が共通語として世界中に普及した。また、グ
ンス・テクニクにおいてもバレエの基礎基本が各種
ダンスの基本トレーニングに有効であり、バレエダン
サーはもちろん、バレエ以外のダンサーもニーズに合
わせてコーディネートしたバレエ・レッスンを行って
いる¹⁾。そのレッスンを受講するため、日本には沢山の
バレエスタジオや教室があり、その指導の現場でバレ

エ・テクニクを教える場合、動きを通してあるメソッ
ドに沿って指導する者や、それぞれが独自の教授法を
用いて指導していることなどが推察される。しかしそ
の際、根本となるバレエの基礎基本に対する指導とし
て、共通の理解があるか疑問をいただくことが多い。ま
た、根本的な見落としがあるのではないかということ
も考えられる。

バレエには3つの原理、5つのポジション、足のパ
として4種類のパ(動きの単位)がある。3つの原理
とはアン・デ・オール、アプローン、エレヴェッショ
ンであり、5つのポジションとは足の第1から第5ま
までであり、4種類のパは滑るパ、打つパ、回転のパ、
跳躍のパである¹⁸⁾。これらは足の基本や身体の軸を習
得するためのバー・レッスンと、身体の移動を伴い、
ポジション、ポーズ、パの練習を行うセンター・レッ
スンで身につけることができる。そして、これらは最

1) 日本女子体育大学(准教授)

2) 日本女子体育大学非常勤講師

3) 日本女子体育大学大学院生

4) 日本女子体育大学(教授)

最終的に、バレエの5大技法と呼ばれるテクニックの回転、跳躍、バランス、ポーズ、位置移動を完成させて高度なテクニックとなる。

クラシック・バレエの基礎基本づくりとなるバー・レッスンのプログラムは、5つの足のポジションと4種類のパに繋がる動きによって構成され、体系化されている。しかし3つの原理は実践の場では、一般的に原理と承知しているものの、自覚なくその内容に近い用語を使用していることが多い。例えば、アン・デ・オールはターンアウト、アプローンはシンメトリーやバランス、エレヴェーションはプールアップや引き上げなどという語が使用されている。これら3つの原理は舞踊教育に関する文献にごくわずかに説明されているだけであり用語としては、実践の現場ではアン・デ・オール以外の用語を耳にすることはあまりない。

平柳によると⁸⁾、アン・デ・オールとは、脚を開くことにより、脚の可動範囲を広げ、身体が空間に解き放たれていくような遠心性を持つ、調和と均衡のとれた動きの原点となる動きである。またアプローンとは、静止していても空中においても動きの途中においても要求される沈着性を持った調和とバランスであり、シンメトリーの美学を持つ。エレヴェーションとは立つ姿勢、または空中でも背骨はまっすぐ伸ばされ、上に引き上げることが要求され、大地から天空に向けて引き上げる動きである。

これら3つの原理的構成は、例えば平衡性、沈着性、安定性であるアプローンを求める時には、アン・デ・オールとエレヴェーションが必要とされる。アン・デ・オールは、回転やジャンプの衝撃を和らげ、ねんぎなどの障害を防ぐため、アプローンの安定性、沈着性に繋がっている。エレヴェーションは地上においても空中においても、身体が天と地に向かって引き合っているため垂直であり、アプローンの平衡性に繋がっている。

このようにそれぞれの3つの原理の比重は動きによってさまざまとなるが、トライアングルの相関関係であることがいえ、重要視すべき事項だと考えられる。クラシック・バレエの基礎基本を習得するには、この3つの原理の関係を理解し、意識することにより、バレエの身体のあり方が分かりやすく体得でき、より美しいバレエ美が理解できると考えられる。しかしながら、その基礎基本に対する共通理解は、必ずしも明確ではない。

そこで本研究では、バレエ・テクニックの基礎づくりとしてあげられるバー・プログラムに焦点を当て、

日本女子体育大学舞踊学専攻専門基礎教育科目・必修「舞踊学実習（クラシックバレエ基礎）」（以後、「クラシックバレエ基礎」と略す。）を履修する舞踊学専攻1年生を対象に、この3つの原理の理解度と到達度に関してアンケート調査を実施し、分析・考察する。

本研究の目的は以下のとおりである。

- (1) 文献によるクラシック・バレエの基礎基本の根拠を明確にする
 - (2) 舞踊学専攻生のクラシック・バレエの基本に関する習得状況を明らかにする
 - (3) 今後のクラシック・バレエの基本のあり方を検討する
- 以上の事項を目的とする。

II. 研究方法

1. 基本的なアプローチ

本研究は基本的に以下の手続きで進めた。

- 1) 文献によるクラシック・バレエの基礎基本の検討
- 2) 調査票作成
- 3) 日本女子体育大学舞踊学専攻学生の調査分析
 - ① 習得状況
 - ② 個人特性と習得状況
 - ③ 時系列、習得状況の変容
- 4) 分析結果に基づく指導のあり方の考察

2. 調査項目

本研究の調査票の調査項目は表1に示す通りである。

「クラシックバレエ基礎」の履修者は、初心者から10年以上の経験者が居り、また、種々の舞踊分野を経験している者がいるので、まず、学生の特性とクラシック・バレエの特性の理解に関する項目を設定した。

クラシック・バレエの特性として、バレエへの印象については「大好き」「好き」「どちらともいえない」「やや嫌い」「嫌い」の5段階により評定を設定し、回答を得た。バレエ・テクニックへの理解については「よく分かる」「分かる」「どちらともいえない」「あまり分からない」「分からない」の5段階、バレエの必要性について「非常に思う」「思う」「どちらともいえない」「思わない」「全く思わない」の5段階により評定を設定し、回答を得た。

また本研究の要となる、3つの原理とバー・プログラムとの関係についてはアン・デ・オール、アプロ

表1 調査項目

舞踊学専攻授業「クラシックバレエ基礎」	集団特性 学生特性	・所属クラス ・学年 ・専門舞踊分野 ・専門舞踊分野経験年数 ・専門舞踊分野以外の舞踊歴
	クラシック・バレエ特性の理解	・バレエへの印象 ・バレエ・テクニクについて ・バレエの必要性
プリエ	アン・デ・オール	アプローン エレヴェッション
バトマン・タンデュ	アン・デ・オール	アプローン エレヴェッション
バトマン・ジュッテ	アン・デ・オール	アプローン エレヴェッション
ロンデ・ジャンプ・ア・テール	アン・デ・オール	アプローン エレヴェッション
フォンデュ	アン・デ・オール	アプローン エレヴェッション
バトマン・フラッペ	アン・デ・オール	アプローン エレヴェッション
アダジオ	アン・デ・オール	アプローン エレヴェッション
グラン・バトマン・ジュッテ	アン・デ・オール	アプローン エレヴェッション

ン、エレヴェッションに関して、パー・プログラムの主な8つの項目 (plié, battement tendu, battement jeté degage, rond de jambe, battement fondu développé, battement frappe, adagio, grand battement jeté)^{註1)}を取り上げ、「よく分かる」「分かる」「あまり分からない」「分からない」の4段階により評定を設定し回答を得た。

3. 調査方法

調査は2013年4月に入学した日本女子体育大学舞踊学専攻1年生を対象に「クラシックバレエ基礎」の授業において4月前半(授業1回目)、6月後半(授業7回目)、7月後半(授業15回目)の3回にわたりクラシック・バレエの3つの原理の理解度についてのアンケート調査を95名に対して実施し、回答を得た。

なお今回は現在の理解度をそのまま知るために3つのワードについての用語説明、動きの説明、特に3つの原理の関係の重要性などの説明を控えて授業を実施した。

III. 研究結果

1. クラシック・バレエの基礎基本の検討

表2は、舞踊の文献カテゴリーとして歴史、教育、解剖学、辞典、テクニク、舞踊理論的なものとして各分野に分け、3つの原理の用語をピックアップし、

示したものである。

表作成およびその結果は、以下のように要約することができる。なお、表2において著書名に付した(テ)はテクニク、(歴)は歴史、(辞)は辞典、(教)は教育、(理)は舞踊理論的なもの、(解)は解剖学の分野を表す。

- ① アン・デ・オールはクラシック・バレエの動きの基礎原理であるがゆえに、まず記載されていないものはない。
- ② アプローンの必要性について、多く記載されているものの用語は少ない。記載されているものは回転やポジションの安定性として記述されている。
- ③ エレヴェッションの記述のあるものは、跳躍のためや、引き上げることなどと書かれている。
- ④ 文献において3つの原理をセットとして記述しているものはわずかであり、それは教育と歴史の文献であった。
- ⑤ 若松は「この3つの原理を完全に遂行することのみによって、バレエ美は実現される。女性ダンサーはこの100年間にトウシューズを履き、重心を完全に引き上げ、アプローンを正確に実現し、アン・デ・オールによって怪我も最小限にとどめている。この原理を完遂しない限り、こうしたトウのダンスは不可能であろう。」¹⁸⁾と述べており、3つの原理として、どれが欠けても通用しない相関関係を示し重要性を説いた。

表2 舞踊文献一覧

著書名・文献番号	著者名・出版年数	アブロン	エレヴェッション	アン・デ・オール (ターン・アウト)	3つの原理の 表し方
クラシックバレエ： 基礎技法と用語 (テ) ¹⁰	カーステイン, リンカーン, スチュワート, ミュエル, ガイヤール, カーラス共著, 松本亮, 森乾共訳 (1967)		●	●	
クラシックバレエ テクニック (テ) ¹⁹	ワーレン, グレッチェン著 里見悦郎訳 (2008)	●	●	●	※本文ではなく, 「用語解説」に記載
バレエ教則本 (テ) ¹⁵	ワガーノフ, ア・ヤ著, 梅村レイ子訳 (1951)	●	●	●	
バレエの基礎知識 (テ) ¹¹	蘆原英了著 (1950)		●	●	
ポリショイ・バレエの技法：メセレル 教則本による基礎と展開 (テ) ¹⁴	メセレル, A 著, 中本信幸訳 (1976)			●	
バレエの歴史 (歴) ³	クリストゥ, マリー=フランソワーズ著, 佐藤俊子訳 (1970)	●	●	●	3つの原則
オックスフォード バレエ ダンス事典 (辞) ⁴	クレイン, デブラ, マックレル, ジュディス著, 鈴木晶監訳 (2010)		●	●	
新版 バレエ用語辞典 (辞) ⁹	川路明編著 (1980)	●	●	●	
現代スポーツコーチ 実践講座26ダンス (教) ¹⁸	若松美黄 (1983)	●	●	●	3つの原理
ダンス・クラシックにおける 美的原則の研究：アブロン (教) ⁷	平山素子 (2001)	●	●	●	3つの原則
舞踊学講義 (教) ⁸	平柳弥生著, 舞踊教育研究会 (代表・片岡康子) 編 (2002)	●	●	●	3つの技術的特性
歓喜の書 (理) ¹⁶	ヴォルインスキー, アキム著, 鈴木晶・ 赤尾雄人訳 (1993)		●	●	
バレエ 形式と象徴 (理) ²⁰	ツァハリヤス, ゲルハルト著, 渡辺鴻訳 (1965)	●		●	
インサイド・バレエテクニック：正しい レッスンとテクニックの向上 (解) ⁶	グリーグ, ヴァレリー著, 上野房子訳 (1997)	●		●	
ヤングダンサー指導のためのバレエの サイエンス (解) ¹²	ローソン, ジョーン著, 森下はるみ訳 (1995)		●	●	

テクニック…(テ)/歴史…(歴)/辞典…(辞)/教育…(教)/舞踊理論的なもの…(理)/解剖学…(解)

- ⑥ マリー=フランソワーズ・クリストゥは「3世紀以上にもわたる探求はアン・デ・オール(脚を完全に外側に開くこと。バレエの全ての技法の基礎になっている。), アブロン(舞踊手のバランスまたは安定性), エレヴェッション(跳躍)の原則に基づいた美学を開花させた。」³⁾とこのように3つの原則として述べている。
- ⑦ 平柳は3つの原理について、3つの技術特性として記述し⁸⁾、平山は3つの美的原則として述べ、「日本の指導においては、アブロンという用語はあまり使用されておらず」⁷⁾と特にアブロンに着目し、指導に反映させるべきと述べている。これらの文献についての検討結果の整理を踏まえて、3つの原理について以下のように特徴づけた。

- 1) 3つの原理に関しては、そのいずれかに言及している
- 2) 3つの原理の定義づけは一律ではない
- 3) 3つの原理をセットにしているものは少ない
- 4) 体系に言及する例はさらに少ない

以上の検討結果を踏まえて、本研究では3つの原理のいずれかを重視するのではなく、バランスよくバレエの基礎基本に位置づけることが、重要であるという知見が得られた。

2. 調査対象者の特性

表3-1, 表3-2は、本研究の対象者の特性を示したものである。日本女子体育大学舞踊学専攻1年生は、「クラシックバレエ基礎」の授業初日に、オーディショ

表3-1 「クラシックバレエ基礎」の受講学生の舞踊特性

		N=95	
		f	%
クラス	初級	33	34.7
	中級	38	40.0
	上級	24	25.3
専門舞踊分野	クラシック・バレエ	38	40
	モダン・ダンス	11	11.6
	コンテンポラリー・ダンス	2	2.1
	ジャズ・ダンス	14	14.7
	その他	16	16.8
	2分野以上	14	14.7
専門舞踊分野 経験年数	1～3年	12	12.6
	3～5年	3	12.6
	5～10年	19	20
	10年以上	59	62.1
	無回答	2	2.1
専門舞踊分野 (その他) (複数回答)			N=25
		f	%
	新体操	2	8.0
	ソングリーディング	3	12.0
	創作ダンス	3	12.0
	モダン・バレエ	6	24.0
	タップ・ダンス	1	4.0
	ストリートダンス	3	12.0
ヒップホップ	7	28.0	
専門舞踊分野以外のダンス (複数回答)			N=131
		f	%
	クラシック・バレエ	35	26.7
	モダン・ダンス	19	14.5
	コンテンポラリー・ダンス	22	16.8
	ジャズ・ダンス	27	20.6
その他	28	21.4	

ンによりクラス分けを行った。クラスの分け方の基準としては、バレエを理解して踊れる学生は上級クラス、表面的な理解度でうまく身体に表せない学生は中級クラス、バレエそのものを知らない学生を初級クラスとして分けた。

表3-1の専門舞踊分野別では、クラシック・バレエ40%、モダン・ダンス11.6%、コンテンポラリー・ダンス2.1%、ジャズ・ダンス14.7%、その他16.8%（新体操8%、ソングリーディング12%、創作ダンス12%、モダン・バレエ24%、タップ・ダンス4%、ストリートダンス12%、ヒップホップ28%）、また2つ以上の専門分野があるものが14.7%であり、クラシック・バレ

エが全体の1/3近くの人数を示した。

また専門分野以外のダンスとしてクラシック・バレエ26.7%、モダン・ダンスが14.5%、コンテンポラリー・ダンス16.8%、ジャズ・ダンスが20.6%、その他が21.4%であり、専門分野以外のダンスでもクラシック・バレエが多いことから、ほとんどの学生がクラシック・バレエを体得していることが示された。

表3-2は、クラシック・バレエの特性としてバレエへの印象は、「大好き」「好き」「どちらともいえない」「やや嫌い」「嫌い」の5択に対して、「大好き」が26.3%、「好き」が44.2%であり、印象が悪くないことを示している。

バレエ・テクニックの理解度に対しては、「よく分かる」が12.6%、「分かる」32.6%、「どちらともいえない」29.5%、「あまり分からない」20.0%、「分からない」5.3%であった。

クラシック・バレエの必要性は、「センター軸」の「非常に思う」が86.3%となっており、「センター軸」に高い必要性を感じている結果となった。また、他の項目も比較的高い結果となった。

3. 「クラシックバレエ基礎」3つの原理のクラス別到達度・理解度

グラフ1-1, 1-2, 1-3は、クラス別の習得状況を示している。

上級クラスのアン・デ・オールを理解度は、「プリエ」, 「バトマン・タンデュ」の「よく分かる」が58.3%を示していた。

アプローンについては、「プリエ」で、「よく分かる」が8.3%で、エレヴェッションについては、「プリエ」で、「よく分かる」が8.3%であり、アプローンとまったく同様の結果であった。

以上のことから上級クラスであっても、アン・デ・オールの「プリエ」の理解度は高いが、他のアプローン、エレヴェッションにおいては、あまり高くない結果を示した。

中級クラスのアン・デ・オールについては、「プリエ」の「よく分かる」が47.4%、アプローンの「バトマン・タンデュ」と「バトマン・ジュッテ」の「よく分かる」が7.9%、エレヴェッションについては、「バトマン・タンデュ」の「よく分かる」が10.5%であり、ここでもアン・デ・オールの理解度は高いけれども、アプローン、エレヴェッションにおいては、あまり高くない結果を示した。

表 3-2 クラシック・バレエ特性

		N=95							
バレエへの印象		f	%	バレエ・テクニックへの理解		f	%		
	大好き	25	26.3		よく分かる	12	12.6		
	好き	42	44.2		分かる	31	32.6		
	どちらともいえない	15	15.8		どちらともいえない	28	29.5		
	やや嫌い	11	11.6		あまり分からない	19	20.0		
	嫌い	1	1.1		分からない	5	5.3		
	無回答	1	1.1						

バレエの必要性	非常に思う		思う		どちらともいえない		思わない		全く思わない	
	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
筋力	63	66.3	28	29.5	3	3.2	1	1.1	0	0.0
ボディライン	66	69.5	26	27.4	2	2.1	1	1.1	0	0.0
表現力	65	68.4	22	23.2	6	6.3	2	2.2	0	0.0
動き	65	68.4	28	29.5	0	0.0	2	2.1	0	0.0
センター軸	82	86.3	11	11.6	1	1.1	1	1.1	0	0.0
浸る	34	35.8	35	36.8	18	18.9	7	7.4	1	1.1
本質を知る	46	48.4	40	42.1	6	6.3	3	3.2	0	0.0

グラフ 1-1 「クラシックバレエ基礎」クラス別習得状況 アンケート 1 回目

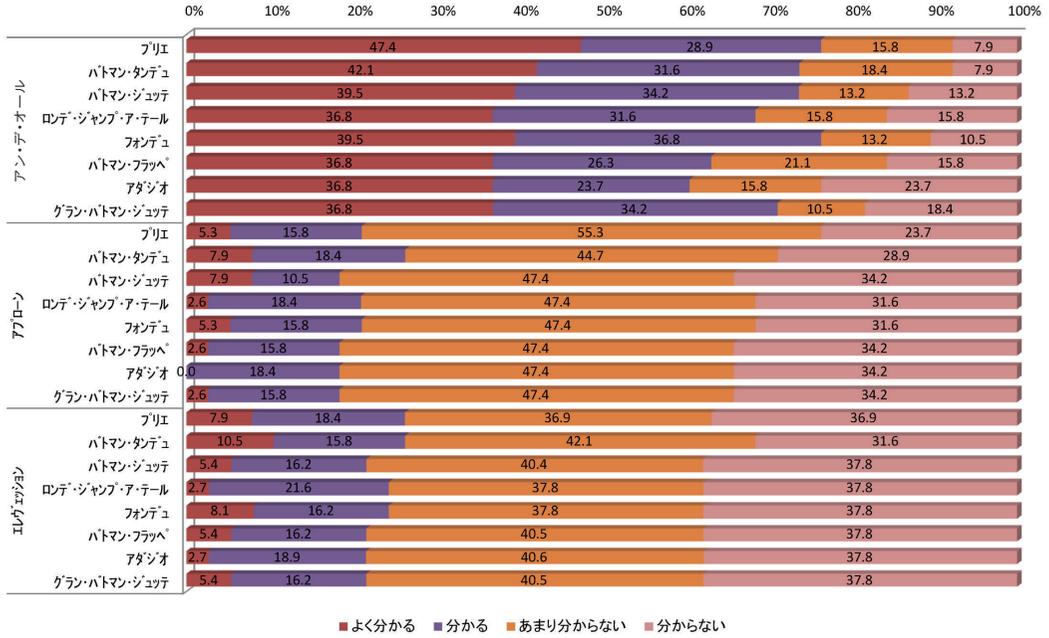
上級



■よく分かる ■分かる ■あまり分からない ■分からない

グラフ 1-2 「クラシックバレエ基礎」クラス別習得状況 アンケート 1 回目

中級



グラフ 1-3 「クラシックバレエ基礎」クラス別習得状況 アンケート 1 回目

初級



表4-1 「クラシックバレエ基礎」クラス別習得状況の変容（上級）

		1回目								3回目							
		よく分かる		分かる		あまり 分からない		分からない		よく分かる		分かる		あまり 分からない		分からない	
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
アン・デ・オール	プリエ	14	58.3	9	37.5	0	0.0	1	4.2	17	68.0	8	32.0	0	0.0	0	0.0
	バトマン・タンデュ	14	58.3	9	37.5	0	0.0	1	4.2	17	68.0	8	32.0	0	0.0	0	0.0
	バトマン・ジュッテ	12	50.0	12	50.0	0	0.0	0	0.0	18	72.0	7	28.0	0	0.0	0	0.0
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	12	50.0	11	45.8	0	0.0	1	4.2	18	72.0	7	28.0	0	0.0	0	0.0
	フォンデュ	13	54.2	11	45.8	0	0.0	0	0.0	17	68.0	8	32.0	0	0.0	0	0.0
	バトマン・フラッペ	13	54.2	10	41.7	1	4.2	0	0.0	18	72.0	7	28.0	0	0.0	0	0.0
	アダジオ	12	50.0	11	45.8	1	4.2	0	0.0	18	72.0	7	28.0	0	0.0	0	0.0
	グラン・バトマン・ジュッテ	12	50.0	11	45.8	1	4.2	0	0.0	18	72.0	7	28.0	0	0.0	0	0.0
アブローン	プリエ	2	8.3	1	4.2	12	50.0	9	37.5	2	8.0	4	16.0	9	36.0	10	40.0
	バトマン・タンデュ	1	4.2	1	4.2	12	50.0	10	41.7	2	8.0	4	16	9	36.0	10	40.0
	バトマン・ジュッテ	0	0.0	2	8.7	11	47.9	10	43.5	2	8.0	4	16.0	8	32.0	11	44.0
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	2	8.7	11	47.8	10	43.5	2	8.0	4	16.0	8	32.0	11	44.0
	フォンデュ	0	0.0	2	8.7	10	43.5	11	47.8	1	4.0	5	20.0	8	32.0	11	44.0
	バトマン・フラッペ	0	0.0	2	9.1	8	36.4	12	54.5	2	8.0	4	16.0	8	32.0	11	44.0
	アダジオ	0	0.0	2	8.7	9	39.1	12	52.2	2	8.0	4	16.0	8	32.0	11	44.0
	グラン・バトマン・ジュッテ	0	0.0	2	8.7	9	39.1	12	52.2	2	8.0	4	16.0	8	32.0	11	44.0
エレヴェッション	プリエ	2	8.3	1	4.2	15	62.5	6	25.0	4	16.0	4	16.0	9	36.0	8	32.0
	バトマン・タンデュ	1	4.2	1	4.2	12	50.0	10	41.7	3	12.0	3	12.0	10	40.0	9	36.0
	バトマン・ジュッテ	0	0.0	2	8.7	10	43.5	11	47.8	3	12.0	4	16.0	9	36.0	9	36.0
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	2	8.7	10	43.5	11	47.8	3	12.0	3	37.6	9	36.0	10	40.0
	フォンデュ	0	0.0	2	8.7	10	43.5	11	47.8	2	8.0	5	20.0	9	36.0	9	36.0
	バトマン・フラッペ	0	0.0	2	9.1	8	36.4	12	54.5	3	12.0	4	16.0	9	36.0	9	36.0
	アダジオ	0	0.0	2	8.7	9	39.1	12	52.2	3	12.0	4	16.0	9	36.0	9	36.0
	グラン・バトマン・ジュッテ	0	0.0	2	8.7	9	39.1	12	52.2	3	12.0	4	16.0	9	36.0	9	36.0

初級クラスについても同様の傾向であった。

4. 「クラシックバレエ基礎」3つの原理の到達度・理解度の変容

表4-1及び表4-2は、「クラシックバレエ基礎」の3つの原理の習得状況の変容を示している。表4-1は、上級クラスの1回目及び3回目の調査の分析結果を示している。

上級クラスのアン・デ・オールの各項目は1回目において高い値を示したが、3回目でさらに上昇していることを示している。アブローンとエレヴェッションの各項目については、1回目に「よく分かる」が非常に低い結果を示したが、3回目において、やや上昇を示している。この結果は、アン・デ・オールの上昇が顕著であると同時に、アブローンとエレヴェッションについては上級クラスであっても、やや上昇しているにも関わらず、その度合いが多くないことを明確に示す結果となった。

表4-2は、同様の分析をした初級クラスの結果を示している。1回目の初級クラスのアン・デ・オールの

各項目の反応が上級クラスに比較をして、「よく分かる」の比率が低い結果であったが、3回目の結果では、大幅な上昇を示す結果となった。アブローンとエレヴェッションの結果については、上級クラスと同様にわずかな上昇を示した。なお、中級クラスの場合は、ほぼ初級クラスと同様の結果であった。

ここでの分析結果は、クラスを問わず、アン・デ・オールは授業を通して、習得が可能な動きであり、アブローンとエレヴェッションは現在の授業の範囲では習得の向上が難しい動きであることが窺える。

5. 「クラシックバレエ基礎」専門舞踊分野別の到達度・理解度の変容

1) クラシック・バレエを専門とする学生の3つの原理の到達度・理解度の変容

表5-1は、クラシック・バレエを専門とする学生の分析結果である。

アン・デ・オールの「バトマン・ジュッテ」と「アダジオ」の「よく分かる」のアンケート1回目が52.6%の理解度であったのに対し、3回目では、65.8%へ上

表4-2 「クラシックバレエ基礎」クラス別習得状況の変容（初級）

		1回目								3回目							
		よく分かる		分かる		あまり 分からない		分からない		よく分かる		分かる		あまり 分からない		分からない	
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
アン・デ・オール	プリエ	1	3.0	13	39.4	9	27.3	10	30.3	21	67.7	10	32.3	0	0.0	0	0.0
	バトマン・タンデュ	3	9.1	8	24.2	7	21.2	15	45.5	18	58.1	12	38.7	1	3.2	0	0.0
	バトマン・ジュッテ	1	3.0	9	27.3	10	30.3	13	39.4	17	54.8	10	32.3	3	9.7	1	3.2
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	1	3.0	9	27.3	8	24.2	15	45.5	18	58.1	10	32.3	2	6.5	1	3.2
	フォンデュ	1	3.0	8	24.2	5	15.2	19	57.6	13	41.9	10	32.3	7	22.6	1	3.2
	バトマン・フラッペ	2	6.1	4	12.1	6	18.2	21	63.6	15	48.4	11	35.5	3	9.7	2	6.5
	アダジオ	1	3.0	3	9.1	6	18.2	23	69.7	9	29.0	10	32.3	8	25.8	4	12.9
	グラン・バトマン・ジュッテ	1	3.0	9	27.3	6	18.2	17	51.5	18	58.1	7	22.6	5	16.1	1	3.2
アプローン	プリエ	0	0.0	1	3.0	9	27.3	23	69.7	4	12.9	7	22.6	15	48.4	5	16.1
	バトマン・タンデュ	0	0.0	1	3.0	10	30.3	22	66.7	4	12.9	9	29	12	38.7	6	19.4
	バトマン・ジュッテ	0	0.0	0	0.0	11	33.3	22	66.7	2	6.5	9	29.0	13	41.9	7	22.6
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	1	3.0	10	30.3	22	66.7	2	6.5	10	32.3	12	38.7	7	22.6
	フォンデュ	0	0.0	0	0.0	10	30.3	23	69.7	2	6.7	7	23.3	14	46.7	7	23.3
	バトマン・フラッペ	0	0.0	0	0.0	8	24.2	25	75.8	2	6.5	9	29.0	13	41.9	7	22.6
	アダジオ	0	0.0	1	3.0	7	21.2	25	75.8	1	3.2	6	19.4	15	48.4	9	29.0
	グラン・バトマン・ジュッテ	0	0.0	0	0.0	9	27.3	24	72.7	2	6.5	9	29.0	13	41.9	7	22.6
エレヴェッション	プリエ	0	0.0	1	3.0	9	27.3	23	69.7	2	6.5	8	25.8	14	45.2	7	22.6
	バトマン・タンデュ	0	0.0	0	0.0	11	33.3	22	66.7	2	6.5	10	32.3	12	38.7	7	22.6
	バトマン・ジュッテ	0	0.0	0	0.0	11	33.3	22	66.7	1	3.2	9	29.0	14	45.2	7	22.6
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	1	3.0	10	30.3	22	66.7	1	3.2	9	29.0	14	45.2	7	22.6
	フォンデュ	0	0.0	0	0.0	10	30.3	23	69.7	1	3.3	7	23.3	15	50.0	7	23.3
	バトマン・フラッペ	0	0.0	0	0.0	8	24.2	25	75.8	1	3.2	9	29.0	14	45.2	7	22.6
	アダジオ	0	0.0	1	3.0	7	21.2	25	75.8	0	0.0	7	22.6	15	48.4	9	29.0
	グラン・バトマン・ジュッテ	0	0.0	0	0.0	9	27.3	24	72.7	1	3.2	10	32.3	12	38.7	8	25.8

昇を示した。

また、アプローンの「プリエ」と「バトマン・タンデュ」において、「分かる」の1回目が5.3%であったのに対し、3回目では31.6%に上昇した。「アダジオ」も同様に上昇を示した。

さらに、エレヴェッションの「プリエ」と「バトマン・タンデュ」においても同様に「分かる」が、5.3%から34.2%に上昇を示した。

2) モダン・ダンスを専門とする学生の3つの原理の到達度・理解度の変容

表5-2は、モダン・ダンスを専門とする学生の分析結果である。

アン・デ・オールの「プリエ」については、「よく分かる」が9.1%から3回目には60%と大きな上昇を示した。

アプローンとエレヴェッションについては、わずかな上昇は見られたが、各項目であまり大きな変容は見られなかった。

3) ジャズ・ダンスを専門とする学生の3つの原理の到達度・理解度の変容

表5-3は、ジャズ・ダンスを専門とする学生の分析結果である。

ジャズ・ダンスの学生の1回目の結果では、「よく分かる」がほとんどなかったのに対して、アン・デ・オールの3回目に著しい増加を示した。また、アプローンとエレヴェッションの各項目の3回目において「分かる」が大きく上昇し、顕著な変容を示す結果となった。

これらの結果は、学生の専門舞踊分野による特色のある変容を示すとともに、3つの原理の基本的な意識的動作によって、変容が異なることをも示している。特に、学生の専門舞踊分野による詳細な差異は認められるものの、共通してアン・デ・オールの変容が大きく認められる。その一方で、アプローンとエレヴェッションは全体的に授業を通して大きな変容は見られない結果となった。

表5-1 「クラシックバレエ基礎」専門舞踊分野別習得状況の変容

		クラシック・バレエ（1回目）								クラシック・バレエ（3回目）							
		よく分かる		分かる		あまり 分からない		分からない		よく分かる		分かる		あまり 分からない		分からない	
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
アン・デ・オール	プリエ	23	60.5	12	31.6	2	5.3	1	2.6	24	63.2	14	36.8	0	0.0	0	0.0
	バトマン・タンデュ	24	63.2	12	31.6	1	2.6	1	2.6	24	63.2	14	36.8	0	0.0	0	0.0
	バトマン・ジュッテ	20	52.6	15	39.5	2	5.3	1	2.6	25	65.8	13	34.2	0	0.0	0	0.0
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	19	50.0	15	39.5	2	5.3	2	5.3	25	65.8	13	34.2	0	0.0	0	0.0
	フォンデュ	21	55.3	15	39.5	1	2.6	1	2.6	24	63.2	14	36.8	0	0.0	0	0.0
	バトマン・フラッペ	23	60.5	10	26.3	4	10.5	1	2.6	23	60.5	15	39.5	0	0.0	0	0.0
	アダジオ	20	52.6	13	34.2	4	10.5	1	2.6	25	65.8	13	34.2	0	0.0	0	0.0
	グラン・バトマン・ジュッテ	21	55.3	14	36.8	2	5.3	1	2.6	25	65.8	13	34.2	0	0.0	0	0.0
アプローン	プリエ	4	10.5	2	5.3	22	57.9	10	26.3	2	5.3	12	31.6	13	34.2	11	28.9
	バトマン・タンデュ	4	10.5	2	5.3	21	55.3	11	28.9	2	5.3	12	31.6	13	34.2	11	28.9
	バトマン・ジュッテ	2	5.4	3	8.1	20	54.1	12	32.4	2	5.3	12	31.6	12	31.6	12	31.6
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	5	13.5	21	56.8	11	29.7	2	5.3	10	26.3	14	36.8	12	31.6
	フォンデュ	1	2.7	4	10.8	19	51.4	13	35.1	1	2.6	11	28.9	14	36.8	12	31.6
	バトマン・フラッペ	1	2.8	4	11.1	17	47.2	14	38.9	3	7.9	8	21.1	15	39.5	12	31.6
	アダジオ	0	0.0	5	13.5	19	51.4	13	35.1	2	5.3	10	26.3	14	36.8	12	31.6
	グラン・バトマン・ジュッテ	1	2.7	4	10.8	18	48.7	14	37.8	3	7.9	8	21.1	15	39.5	12	31.6
エレヴェッション	プリエ	5	13.2	2	5.3	23	60.5	8	21.1	4	10.5	13	34.2	12	31.6	9	23.7
	バトマン・タンデュ	5	13.2	2	5.3	20	52.6	11	28.9	3	7.8	13	34.2	12	31.6	10	26.3
	バトマン・ジュッテ	1	2.8	5	13.9	17	47.2	13	36.1	3	7.9	13	34.2	12	31.6	10	26.3
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	6	16.7	17	47.2	13	36.1	3	7.9	11	28.9	13	34.2	11	28.9
	フォンデュ	2	5.6	4	11.1	17	47.2	13	36.1	2	5.3	13	34.2	13	34.2	10	26.3
	バトマン・フラッペ	2	5.7	4	11.3	15	42.9	14	40.0	4	10.5	10	26.3	14	36.8	10	26.3
	アダジオ	1	2.8	5	13.9	17	47.2	13	36.1	3	7.9	12	31.6	13	34.2	10	26.3
	グラン・バトマン・ジュッテ	2	5.6	4	11.1	16	44.4	14	38.9	4	10.5	10	26.3	14	36.8	10	26.3

IV. 考 察

1. クラシック・バレエの基礎基本の明確化

舞踊の文献カテゴリーとして歴史、教育、解剖学、辞典、テクニク、舞踊理論的なものとして各分野に分け、3つの原理の用語をピックアップした。アン・デ・オールは動きの基礎原理であるがゆえに、まず記載されていないものはないが、アプローン、エレヴェッションは文献において記載がさまざまであった。また、3つの原理およびそれらの関係について記述しているものは、すべて教育関係の文献にあった。これは、バレエの基礎基本を学ぶにあたり、3つの原理が特に重要であることを意味していると考えられ、確実にこの3つの原理を動きに位置づけ、関係させて習得させることが指導において重要であることが明確となった。

2. 対象者の特性と習得状況について

クラシック・バレエの基礎基本の捉え方があまり明確ではない状況において、本研究では前述の3つの原理に着目し、分析と考察を進めた。その結果、基礎基

本の習得状況は全体的にあまり芳しいものではないということが明らかとなった。この結果は個人の条件により特徴的に異なり、例えば、クラシック・バレエの経験の度合いやクラシック・バレエ以外の専門舞踊領域によっても大きく異なることも明らかとなった。今後のクラシック・バレエの基礎基本の確実な習得や、クラシック・バレエの総合的なレベルアップのためにさらに精密な基礎基本の究明が必要であるものと考えられる。また、対象者個人個人の特性に応じた効果的な指導プログラムの開発も不可欠であると考えられる。

3. 対象者の授業による変容について

「クラシックバレエ基礎」の授業を通じた履修者の変容を、期間をおいた三回のアンケート調査で分析・考察した。

アンケート1回目は所見として、クラシック・バレエの動きの基礎原理であるアン・デ・オールについて、上、中、初級どのクラスにおいても、アプローンとエレヴェッションに比べ理解されていると判断できる。アプローン、エレヴェッションに関しては、バー・ブ

表5-2 「クラシックバレエ基礎」専門舞踊分野別習得状況の変容

		モダン・ダンス (1回目)						モダン・ダンス (3回目)									
		よく分かる		分かる		あまり 分からない		よく分かる		分かる		あまり 分からない					
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%				
アン・デ・オール	プリエ	1	9.1	4	36.4	4	36.4	2	18.2	9	60.0	5	33.3	1	6.7	0	0.0
	バトマン・タンデュ	0	0.0	4	36.4	3	27.3	4	36.4	8	53.3	6	40.0	1	6.7	0	0.0
	バトマン・ジュッテ	0	0.0	3	27.3	4	36.4	4	36.4	9	60.0	4	26.7	2	13.3	0	0.0
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	3	27.3	4	36.4	4	36.4	9	60.0	4	26.7	2	13.3	0	0.0
	フォンデュ	0	0.0	3	27.3	5	45.5	3	27.3	9	60.0	4	26.7	2	13.3	0	0.0
	バトマン・フラッペ	0	0.0	2	18.2	3	27.3	6	54.5	9	60.0	4	26.7	2	13.3	0	0.0
	アダジオ	0	0.0	2	18.2	2	18.2	7	63.6	7	46.7	4	26.7	4	26.7	0	0.0
	グラン・バトマン・ジュッテ	0	0.0	2	18.2	4	36.4	5	45.5	8	53.3	3	20.0	4	26.7	0	0.0
アプローン	プリエ	0	0.0	2	18.2	4	36.4	5	45.5	3	20.0	4	26.7	7	46.7	1	6.7
	バトマン・タンデュ	0	0.0	1	9.1	4	36.4	6	54.5	3	20.0	4	26.7	6	40.0	2	13.3
	バトマン・ジュッテ	0	0.0	1	9.1	4	36.4	6	54.5	1	6.7	7	46.7	6	40.0	1	6.7
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	1	9.1	4	36.4	6	54.5	1	6.7	6	40.0	7	46.7	1	6.7
	フォンデュ	0	0.0	1	9.1	4	36.4	6	54.5	1	6.7	6	40.0	7	46.7	1	6.7
	バトマン・フラッペ	0	0.0	1	9.1	3	27.3	7	63.3	1	6.7	6	40.0	7	46.7	1	6.7
	アダジオ	0	0.0	1	9.1	3	27.3	7	63.6	0	0.0	6	40.0	8	53.3	1	6.7
	グラン・バトマン・ジュッテ	0	0.0	1	9.1	4	36.4	6	54.5	1	6.7	5	33.3	8	53.3	1	6.7
エレヴェッション	プリエ	0	0.0	2	18.2	4	36.4	5	45.5	2	13.3	4	26.7	8	53.3	1	6.7
	バトマン・タンデュ	0	0.0	1	9.1	4	36.4	6	54.5	2	13.3	4	26.7	7	46.7	2	13.3
	バトマン・ジュッテ	0	0.0	1	9.1	4	36.4	6	54.5	1	6.7	4	26.7	9	60.0	1	6.7
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	1	9.1	4	36.4	6	54.5	1	6.7	4	26.7	9	60.0	1	6.7
	フォンデュ	0	0.0	1	9.1	4	36.4	6	54.5	1	6.7	4	26.7	9	60.0	1	6.7
	バトマン・フラッペ	0	0.0	1	9.1	3	27.3	7	63.6	1	6.7	4	26.7	9	60.0	1	6.7
	アダジオ	0	0.0	1	9.1	3	27.3	7	63.6	1	6.7	4	26.7	9	60.0	1	6.7
	グラン・バトマン・ジュッテ	0	0.0	1	9.1	4	36.4	6	54.5	1	6.7	3	20.0	10	66.7	1	6.7

プログラムの「プリエ」の項目に理解度が他に比べて高く見られる。これはバー・プログラムの8項目のうち、プリエは導入として最初に行う動きであり、ゆっくりと筋肉を暖めながらコンセントレーションし、身体と向き合うゆえに、自身の身体を容易に操作することが可能であるためと考えられる。

アンケート3回目ではアン・デ・オールにおいて、「プリエ」以外の項目に理解度を高く示したのは上級クラスであり、これは「プリエ」以外の他の項目にも、さらにアン・デ・オールする意識が持たれたためとみられる。初級クラスではアンケート3回目において、アプローンの「アダジオ」とエレヴェッションの「フォンデュ」にほとんど向上が見られなかった。これはクラシック・バレエ専門外の学生にとって、「アダジオ」、「フォンデュ」のゆっくりとした動き自体の難易度や要求度が高すぎる結果であるものと考えられる。

アンケート1回目と3回目の変化は全体的に認められるが、あまり変化が見られない項目もクラスによっては見受けられる。この結果を踏まえて、授業としての限られた条件でのより効果的な基礎基本の扱いが検

討されなければならないものとする。

グラフ2-1、グラフ2-2、グラフ2-3はクラシック・バレエを専門とする学生の授業による変容を示したものである。ここでは、アン・デ・オール、アプローン、エレヴェッションの中から主な項目を抽出し、それぞれ1回目と3回目の分析結果をまとめたものである。

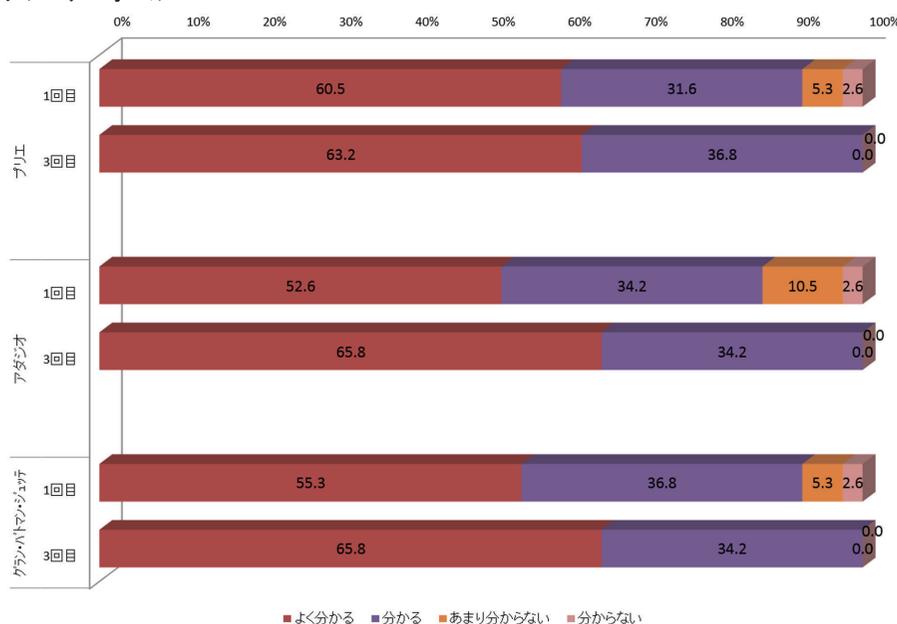
グラフ2-1はアン・デ・オールについてであり、この動きはクラシック・バレエを専門とする学生においては、1回目からかなりの習得状況であり、3回目においての大きな変化はみられない。

グラフ2-2、グラフ2-3はアプローン、エレヴェッションの分析結果であり、すべての項目において理解度が高まっていることを示している。しかしながら、アン・デ・オールの結果に比較して、やや低調な結果となっている。この結果は、授業での指導のあり方にも今後の改善の余地が残されているものとする。しかし、授業のあり方以前に学生たちが授業以前に体得してきた3つの原理の経験によるものと考えられる。すなわち、アン・デ・オールを中心とする基礎基本の考え

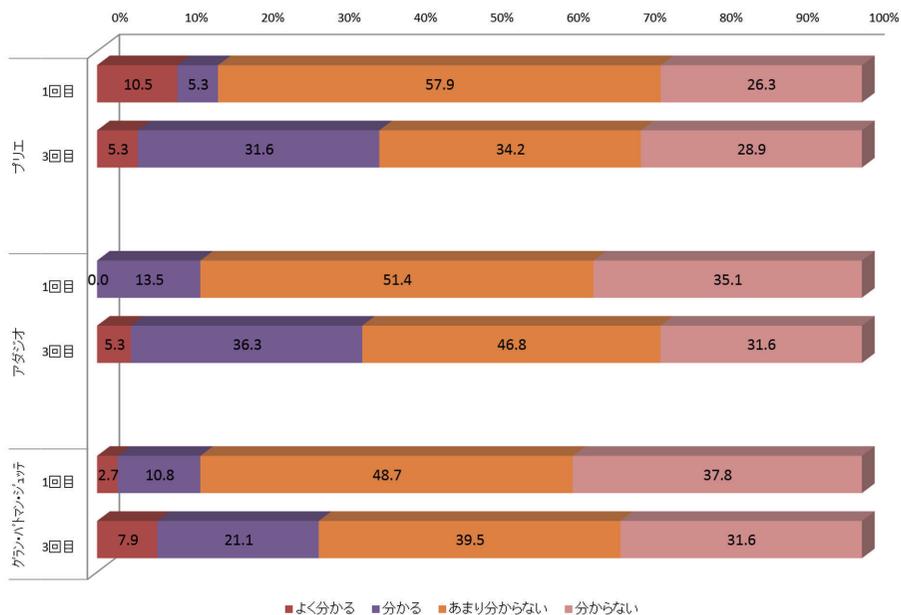
表5-3 「クラシックバレエ基礎」専門舞踊分野別習得状況の変容

		ジャズ・ダンス (1回目)								ジャズ・ダンス (3回目)							
		よく分かる		分かる		あまり 分からない		分からない		よく分かる		分かる		あまり 分からない		分からない	
		f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%	f	%
アン・デ・オール	プリエ	0	0.0	9	64.3	3	21.4	2	14.3	13	68.4	6	31.6	0	0.0	0	0.0
	バトマン・タンデュ	0	0.0	6	42.9	4	28.6	4	28.6	10	52.6	9	47.4	0	0.0	0	0.0
	バトマン・ジュッテ	0	0.0	8	57.1	2	14.3	4	28.6	10	52.6	7	36.8	2	10.5	0	0.0
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	7	50.0	3	21.4	4	28.6	10	52.6	8	42.1	1	5.3	0	0.0
	フォンデュ	0	0.0	8	57.1	1	7.1	5	35.7	8	42.1	8	42.1	3	15.8	0	0.0
	バトマン・フラッペ	0	0.0	6	42.9	3	21.4	5	35.7	9	47.4	9	47.4	0	0.0	1	5.3
	アダジオ	0	0.0	3	21.4	5	35.7	6	42.9	6	31.6	8	42.1	2	10.5	3	15.8
	グラン・バトマン・ジュッテ	0	0.0	8	57.1	2	14.3	4	28.6	10	52.6	8	42.1	1	5.3	0	0.0
アブローン	プリエ	0	0.0	0	0.0	6	42.9	8	57.1	2	10.5	5	26.3	9	47.4	3	15.8
	バトマン・タンデュ	0	0.0	0	0.0	6	42.9	8	57.1	2	10.5	5	26.3	8	42.1	4	21.1
	バトマン・ジュッテ	0	0.0	0	0.0	5	35.7	9	64.3	0	0.0	5	26.3	9	47.4	5	26.3
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	0	0.0	5	35.7	9	64.3	0	0.0	6	31.6	8	42.1	5	26.3
	フォンデュ	0	0.0	0	0.0	6	42.9	8	57.1	0	0.0	4	22.2	9	50.0	5	27.8
	バトマン・フラッペ	0	0.0	0	0.0	5	35.7	9	64.3	0	0.0	5	26.3	9	47.4	5	26.3
	アダジオ	0	0.0	0	0.0	5	35.7	9	64.3	0	0.0	3	15.8	10	52.6	6	31.6
	グラン・バトマン・ジュッテ	0	0.0	0	0.0	6	42.9	8	57.1	0	0.0	5	26.3	9	47.4	5	26.3
エレヴェーション	プリエ	0	0.0	1	7.1	4	28.6	9	64.3	3	15.8	4	21.1	6	31.6	6	31.6
	バトマン・タンデュ	0	0.0	0	0.0	5	35.7	9	64.3	2	10.5	4	21.1	7	36.8	6	31.6
	バトマン・ジュッテ	0	0.0	0	0.0	4	28.6	10	71.4	1	5.3	4	21.1	8	42.1	6	31.6
	ロンデ・ジャンプ・ア・テール	0	0.0	0	0.0	4	28.6	10	71.4	1	5.3	4	21.1	8	42.1	6	31.6
	フォンデュ	0	0.0	0	0.0	4	28.6	10	71.4	1	5.6	3	16.7	8	44.4	6	33.3
	バトマン・フラッペ	0	0.0	0	0.0	4	28.6	10	71.4	1	5.3	5	26.3	7	36.8	6	31.6
	アダジオ	0	0.0	0	0.0	4	28.6	10	71.4	0	0.0	3	15.8	9	47.4	7	36.8
	グラン・バトマン・ジュッテ	0	0.0	0	0.0	5	35.7	9	64.3	1	5.3	5	26.3	7	36.8	6	31.6

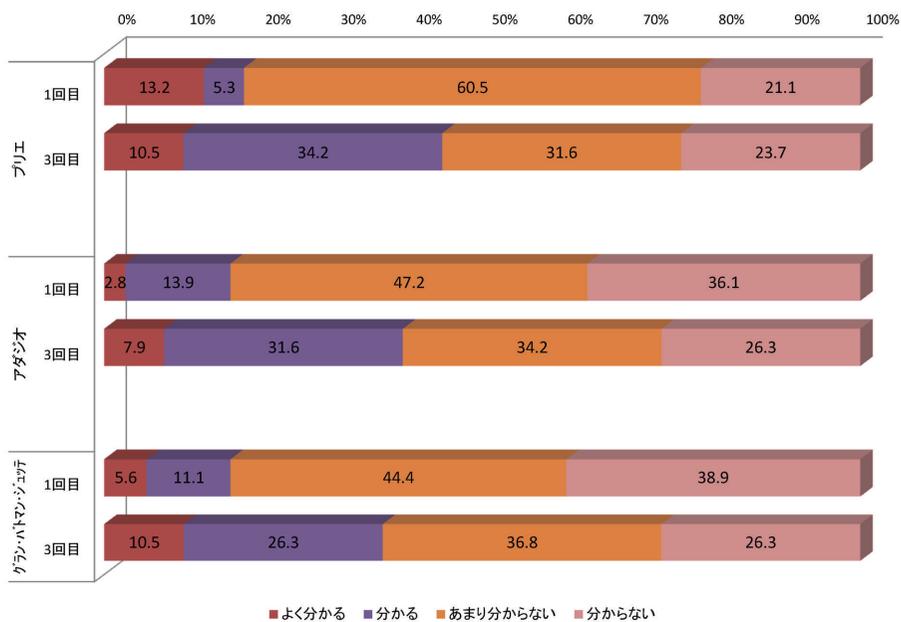
グラフ2-1 「クラシックバレエ基礎」におけるクラシック・バレエを専門とする履修学生の習得状況の変容
アン・デ・オール



グラフ 2-2 「クラシックバレエ基礎」におけるクラシック・バレエを専門とする履修学生の習得状況の変容
アプローン



グラフ 2-3 「クラシックバレエ基礎」におけるクラシック・バレエを専門とする履修学生の習得状況の変容
エレベーション



方にやや偏りがあり、クラシック・バレエの基礎基本として再検討を要する部分と考える。この結果が特に、クラシック・バレエを専門とする学生の分析結果であり、顕著にその傾向を表しているといえよう。

4. 今後の指導のあり方について

本研究の結果では、クラシック・バレエの3つの原理の習得状況や変容が学生の経験や専門性によって異なることが明らかとなった。したがって、クラシック・バレエの基礎基本の指導においては、学生のそれらの特性に応じて、きめ細かな対応が必要である。

クラシック・バレエにおける基礎基本を理解するために、3つの原理が実践の場で活かされているかをあえて、3つの原理の用語、それ自体の行為、重要性を説明せずに調査・分析した。

結果はアブロン、エレヴェッションの理解度が低く、今後の効果的な対応が必要である。さらに、3つの原理のバランスの悪さが明らかであり、上級クラスですら、それぞれの原理を理解していない状況である。すなわち、アン・デ・オール以外はあいまいに理解されているという結果が示され、今後は指導者がこの3つの原理をバランスよくしっかりと教授すれば、クラシック・バレエの基礎基本が習得しやすくなると同時に、総合的なレベルアップに繋がるものと考えられる。

V. 結 論

本研究では、クラシック・バレエの基本指導における基礎的研究として、日本女子体育大学舞踊学専攻1年生を対象に、アン・デ・オール、アブロン、エレヴェッションという3つの原理についてアンケートを行い、考察した。その結果は、以下のように要約することができる。

1. クラシック・バレエの基礎基本を理解するには、3つの原理が重要であることが文献によって示された。
2. クラシック・バレエの3つの原理の習得状況が明らかになった。また、学生の舞踊特性や授業による時系列の習得状況の特色を明らかにした。
3. 分析の結果から、クラシック・バレエの基礎基本を習得するための指導の方向性が示唆された。

本研究では日本女子体育大学舞踊学専攻での専門基礎教育としての授業の履修者を対象として、基礎的に分析と考察を行ったが、今後はさらに多様なクラシッ

ク・バレエの愛好者を対象にして、進展させることが必要であると考えている。

註

1) バー・プログラムは、主に A~H の8つの要素から構成されている。

A. プリエ(plié)：折りたたむという意味。動作に柔軟性を与えるクッションとなる動きで、パのつなぎであり、プリエがなければ潤いのない流れを欠くものとなる。脚の筋肉を外転させ、アキレス腱を伸ばす。

B. バトマン・タンデュ (battement tendu)：うつ、たくという意味。びんと伸ばして張りつめた足の爪先や甲の美しいラインが獲得され、さらに正しい脚のアン・デ・オールが体得される。

C. バトマン・ジュッテ (battement jeté degagé)：投げる、解放するという意味で、バトマン・タンデュの爪先が床面から離れて、床と投げ出した脚との角度が45度開くことをいう。タンデュよりさらに空間において、力強く、美しいラインをつくりあげる。

D. ロンデ・ジャンプ・ア・テール (rond de jambe)：丸い、円形の、脚の回転という意味。脚が付け根から膝、爪先に至るまでピンと伸ばされていることが大切。脚の回転の向きが身体を中心に外側に向いている状態をアン・デ・オール、反対の内側に向いている状態がアン・デ・ダンと呼ばれる。この訓練でもアン・デ・オールが獲得される。ロンデ・ジャンプは身体の周りに弧ないし円を描き、その際、身体の中に溶けて流れ出るような柔らかさを展開するようにする。

E. フォンデュ (battement fondu développé)：溶けるような、発展、成長、展開という意味でタンデュ、ジュッテ、グラン・バトマンという直線系の動きを屈伸させて、動作に柔軟さと潤いを与えるものがデベロッパ(「柔らかい動き」)。しかし支え脚や腰、上体が決して揺れたり、ぐらついたりしてはいけない。アブロンをして踊りを支えなければならず、すべての動きがひとつのゆったりとした呼吸の中で途切れることなく流れているので、爪先や膝、脚のライン全体が柔らかくゆるやかな起伏を持った曲線を描いていて終結のポーズへと続く。

F. バトマン・フラッペ (battement frappé)：たたくという意味で膝から下の足部分の動きが直線上に往復運動をする。足の甲や、くるぶし、両足などを強くする動き。足首のスタビリティを高める。

G. アダジオ(adagio)：気楽、安心、ゆとりという意味。歌いあげる部分であり、脚、上体、全身の動きによって、歌うように旋律を表現する。

H. グラン・バトマン・ジュッテ (grand battement jeté)：大きく打つという意味。タンデュやジュッテからさらに脚が開かれ、90度あるいはそれ以上に上げられたバトマンのことで、大腿部の付け根から脚全体の動きを自由にさせる。ジャンプのための準備として主に脚を使う動き。

引用・参考文献

- 1) 蘆原英了著 (1950) バレエの基礎知識. 創元社, pp. 53-54, 124-125.
- 2) 蘆原英了著 (1981) バレエの歴史と技法. 東出版, pp. 54-55, 127.
- 3) クリストゥ, マリー=フランソワーズ著, 佐藤俊子訳 (1970) バレエの歴史. 白水社, p. 8.
- 4) クレイン, デブラ, マックレル, ジュディス著, 鈴木晶監訳 (2010) オックスフォード バレエ ダンス事典. 平凡社.
- 5) 学校法人 東成学園 昭和音楽大学 バレエ研究所 (2013) バレエ指導者のためのガイドライン 2013 平成20年-24年度 文部科学省 私立大学戦術的研究基盤形成支援事業「バレエ教育現場との連携による日本におけるバレエ教育システムに関する研究」.
- 6) グリーグ, ヴァレリー著, 上野房子訳 (1997) インサイド・バレエテクニック：正しいレッスンとテクニックの向上, 大修館.
- 7) 平山素子 (2001) ダンス・クラシックにおける美的原則の研究：アブロム A Study on the Principles of Dance Classic Aesthetics: APLOMB, 愛知県立芸術大学紀要 31: 77-91.
- 8) 平柳弥生 (2002) 「第II部-9 ダンステクニック (技術的特性)」舞踊教育研究会 (代表・片岡康子) 編 舞踊学講義. 大修館書店, pp.186-187.
- 9) 川路明編著 (1980) 新版 バレエ用語辞典. 東京堂出版, pp.144-145, 148.
- 10) カーステイン, リンカーン, スチュワート, ミュエル, ダイヤー, カーラス共著, 松本亮, 森乾共訳 (1967) クラシックバレエ：基礎技法と用語, 音楽の友社. p. 5, 31.
- 11) 小山佳子子, 渡辺碧, 牧琢弥 (2012) 劇場舞踊においてのバレエ・テクニックの有効性について—バレエ・トレーニング・メソッドとの関係に着目して—, 日本女子体育大学スポーツトレーニングセンター紀要16: 19-31.
- 12) ローソン, ジョーン著, 森下はるみ訳 (1995) ヤングダンサー指導のためのバレエのサイエンス, 大修館書店.
- 13) マッコネル, ジョーン著, マッコネル, ティナ協力, 堀文雄監修, 堀敬枝訳 (1988) バレエ表現のテクニック. 音楽の友社, p.37, 50-51, 81-83, 88-89.
- 14) メセレー, A 著, 中本信幸訳 (1976) ポリショイ・バレエの技法：メセレー教則本による基礎と展開, 西田書店.
- 15) ワガーノワ, ア・ヤ著, 梅村レイ子訳 (1951) バレエ教則本, 芸術社.
- 16) ヴォルインスキー, アキム著, 鈴木晶・赤尾雄人訳 (1993) 歓喜の書. 新書館, p. 2, 224-225, 248-249.
- 17) 安村清美 (2002) 「Lecture10 舞踊作品の構造」舞踊教育研究会 (代表・片岡康子) 編 舞踊学講義. 大修館書店, p.96.
- 18) 若松美黄 (1983) 現代スポーツコーチ実践講座26 ダンス. ぎょうせい, pp.150-151.
- 19) ワーレン, グレッチェン著 里見悦郎訳 (2008) クラシックバレエテクニック. 大修館書店.
- 20) ツァハリアス, ゲルハルト, 渡辺鴻訳 (1965) バレエ 形式と象徴. 美術出版社. p.40, 61, 62-63.

(平成25年9月10日受付)
(平成25年11月27日受理)

